



## 還來生死輪轉家

## 決以疑情為所止

## 速入寂靜無為業

## 必以信心為能入

勝林寺では年頭にご門徒に向けて年回の案内を出しております。一周忌・三回忌・七回忌・十三回忌・十七回忌・二十五回忌・三十三回忌・五十回忌・百回忌を過去帳から繰り出し、お知らせしています。概ね毎年回十件から二十件な十件と異常に多い数の繰り出しが出るのに、なんとなく違和感をもっておりました。原因は、二十世紀に入って最初のパンデミック“スペイン風邪”です。第一次世界大戦の影響もあるのでしょうか、一軒の家で小さな子供が何人もなくなっているのは、やはり疫病の流行だったのだと思います。百年前の六年間、通常の一倍三倍のご門徒が亡くなつたのです。しかし、百回忌をお勧めされるおうちは少なく、というより、どこのおうちの方かわからずに寺に戻される事が多くなっています。百年も経てば人の記憶を継承するのは難しいようです。もちろん自分にも百年前の悲しく苦しく辛い疫病災禍の記憶がある訳はないのですが、曖昧なうろ覚えの記憶のように、情景があたかも見たかのように再来する事があります。「あれ、これ前にも見たよくな……」「既に見た」という“デジヤブ”と呼ばれる経験です。自分の生きた時間の中で経験でないものまで経験されるのが宗教的デジヤブです。ここ数年の世界の動きも、歴史の繰り返しとして、人類に記憶のめまいを起こさせているように感じます。

親鸞聖人が法然上人の存在を「還來生死輪轉家」と示されるとき、二重の命の回転則のあることに気づかれます。一つ目の回転が“生死の輪転”一般的には輪廻転生、六道輪廻の中で、『曠劫よりこのかたつねに没し、つねに流転して』出離の縁あることない凡夫の命の回転です。時に王の衣をまとつて栄華に生きた命が、その後には草葉の陰で鳴く鈴虫となり、迷いの闇を巡つていく命です。その生死の迷いの回転から飛び出し、目覚めて眞実の世界に生まれるのが往生浄土、すなわちお浄土へ生まれることです。しかし法然上人はその浄土から還来（めぐり帰り来る）されるのです。ぐるぐる回る生死輪轉の世界に、ぐるぐる回つてお浄土から帰つてこられたわけです。目が回つてしまいそうですが、そうまでもして、法然上人は救いようのない私にお念仏を聞かせるために戻つてきていただいたのだと親鸞聖人は喜ばれたのです。

いろいろのものが回つています。地球が回り、太陽系が回り、銀河系が回り……時間も回り、記憶も回り、歴史も回っています。一人の命がその時だけのものだとは思えません。私が生きてきた六十数年の時間の中では経験したことのない疫病が流行しています。この疫病が肺炎を引き起こし、人の命を奪うことの恐ろしさもさることながら、人の精神を冒し、社会に瞋りと憎しみと悲しみを流行らせないことを願います。反対にこの世界的困難が、今まで人類の経験にない勇気と優しさと賢さを身につけさせてくれることを切に願います。（文責 住職）

葬儀  
四月十四日  
矢根 永井至誠様 八十九歳

## お知らせ

なかなか終息の兆しの見えない新型コロナウイルス流行に鑑み、年度当初予定しておりました寺の行事につきまして、以下のように変更いたします。ご理解、ご了承をお願いいたします。

## 降誕会

五月二十二日（土）午後二時より

親鸞聖人の誕生をお祝いする法要です。例年は、役員研修と法輪会会員研修をかねて、広くご案内をしておりましたが、本年は寺族のみでお勤めいたします。

## 納骨研修旅行

六月十四・十五日（日・月）



勝林寺ご門徒物故者の大谷本廟への納骨と懇親を兼ねた大切な行事ですが、参加者の安全安心が十分確保できない状況のため、本年度は中止とさせていただきます。なお、納骨につきましても、状況をみながら、時期と参加方法を再考し、ご遺族のみに別途ご案内させていただきたいと考えています。

なお、出石組主催の「念仏奉仕団」も、本山の奉仕団五月六月受け入れ中止の決定を受けて、本年度は取りやめとなりました。

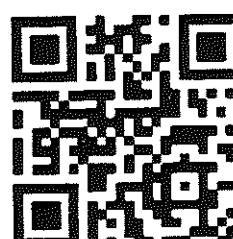
## ご案内

各御家庭における法事の開催についていろいろ心を悩ませておられる方も多くいます。勝林寺では、広い本堂で、席の間隔を十分に

取り、三十分おきに換気をし、必要に応じて、消毒液やマスクをご利用いただけるよう常に準備は整えております。ご家庭の事情も様々だと思います。どんなことでも不安に思われたら、まずは、ご連絡をいただき、ご相談ください。

勝林寺のホームページが開設されました。

勝林寺.net  
または  
shorin-ji.net



門徒専用をクリックして、ログインしてください。  
パスワードは、お寺でお尋ねください。

（敬称略）



## 五月 勝林寺 予定

三日（日） 宮嶋大樹宅 二五回忌  
四日（月） 田中幸男宅 三周忌

一六日（土） 勝林寺 降誕会  
※寺族のみにて勤修

二七日（日） 龍井祐子宅 三回忌  
二三日（土） 坪木昌宅 三回忌  
二六日（火） みのりを聞く会  
※お休みします

三〇日（土） 永井誠宅 忌明法要  
三一日（日） 中島利一宅 七回忌  
※お休みします

## 仏書を読もう

毎月に、お寺では法話会が行われていて、私たちは、容易に仏法の話を聞くことができ、ありがたいことですが、仏法により近づくためには、そういう開法と同時に、仏書を求めて読むということも大切であるうと思います。仏書については、書店に行って、あれこれと本を手に取って選びながら、自分自身に似合つたものを求めることがあります。これからは、縁があれば、そういう仏書を手に入れて読んでください。ただし、仏書にもピンからキリまでがあるので、よくよく探し求めて、ほんものの仏書を手に入れてください。仏書というても、まったく教義的な説明、解釈をしたものがあって、本願とはどういうことか、名号とは何かというようなことを書いたものがありますが、そういうものはだめで、著者自身の仏法をめぐる心の味わい、自分の思いを書いたものを求めてください。すなわち、自分自身が、真宗念佛、真宗信心をどう生きているかという、自分自身の思いを語つたものこそ、もっとも大切です。そういう仏書をこそ探し求めてください。

よつて、自分の心にひびいたものは、繰り返して読む、繰り返して聞くといふことが必要だと思います。「読書百遍、意おのずから通ず」といわれる通りです。

「」ことに少し程度を上げて、親鸞さまの書かれたものの『正信偈』とか、『歎異抄』などを読んでみたいと思われる方は、住職に相談してください。さればよいと思います。その場合には、自分で読んで気に入った文章、心にひびいた文章は、かならず書き留めて、時おり思い出しながら、口に出してみてください。そうすると、その文章の意味が、より深く味わわれてくるようになります。

たとえば、

「頑愚具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろづ

の」と、みなもて、それがしたおじい、おじいさん  
ある」となれば、ただ念佛のみぞ、おじいさんにて  
おはします。」

「聖人のつねのおぼせには、弥陀の五劫思惟の願をよくよく案すれば、ひとへに、親鸞一人がためなりけり。」

たしける。」  
などという文章はどうでしょうか。いずれも  
親鸞さまの言葉です。

皆さんも、自分の心にひびく文章、言葉があつたら、誰の言葉でもいいから、それをいつま

くるものです。(2014・5月)

A detailed black and white line drawing of a flowering plant, possibly an Iris. It features a central bulb with a textured surface, from which several long, thin, pointed leaves grow. At the top of one stem is a cluster of small, delicate flowers.



法語カレンダー（五月）

かれてありとも 知らずおうかとも  
われ反抗す 大いなるみ手に

今月の言葉は、本願寺第二十一代・大谷光尊さまの「息女九条武子夫人による短歌です。歌集『無憂華（ううんげ）』の中の「幼児のこころ」」と題して掲載された歌です。

赤ちゃんが母に抱かれているように、私は阿弥陀さまの大いなる慈悲の手に抱かれているのに、それに気づかない。それを無視して、自分中心の思いを常にもち、自分が起こす苦しみなのに愚痴をこぼし、知らぬ間に人を傷つける。まるで阿弥陀さまの救いに反抗するかのようにおろかな生き方をしているのがこの私だ、という言葉が、「いだかれてありとも知らずおろかにもわれ反抗す大いなるみ手に」の歌であります。阿弥陀さまのひかりに照らされた私は、自らの煩惱にまみれ、自己の力ではどうていの仏に成りようのない人間だと嘆く心と、その無力な自己を深く見つめ、自分のこととして味わうときに、逆にその私に願いをかけ、仏にさせようとする阿弥陀さまの他力の救いが、真実のはたらきとしてあることを心の底からよろぶ心とですが、この二つの心は、実は阿弥陀さまからたまわる信心の内容を示しているのです。

「自己の力では仏になりようのない生き様の私だ」と強く思う心と、「その私を救いとり必ず仏にさせる」という、広大な慈悲の阿弥陀さまのはたらきがある」とよろこぶ心とは、二つであつて二つでない、信心の二面をあらわすものであります。つまり、この迷いの世界を離れる手がかりを持たず、仏になりようのない自己の力を捨てて、阿弥陀さまの他力の救いにわが身を託すというひとつ的心、それが他力の信心とい

新しい病の流行でとても不安な日々ですが、皆さんお変わりありませんか。こんな時でも、山の木々はいつもの年と同じように美しい花を咲かせ、若葉をつけ始めました。ほっとします。勝林寺の庭のイチョウも、昨年先端を大きく切り落とし案じましたが、新緑の芽を出してくれました。(ノ)安心ください。

春のお彼岸以来、皆さまと本堂でゆっくりとお会いすることができなくなり、とても寂しく思います。雪の少なかつた冬を語ったり、作物を植える前の畠の準備の情報を交換したり、体の具合を聞き合い体にいいことを教え合つたり、孫や子供の入学や就職を報告し合つたり、お見えになれない家族の近況を聞いたり・・・皆さんと、毎年のように法要や行事の隙間時間におしゃべりしていたあのひとときがとてもいとおしく感じます。そうやって多くの方とつながつてきていたんだなあと改めて感じます。

勝林寺は、みんな元気で過ごしております。住職と坊守は、たくさんできた時間で、但東町の実家の片づけをぼちぼち進めています。あまりの「ごみとほこりの多さに圧倒され」「」で新しいウイルスに感染しそうだ」とぼやきながら頑張りました。若院は、コロナの影響で仕事が忙しくなったようで、毎日遅くまでがんばっています。先日まで、娘の希里が家でオンライン研修をしておりましたが、四月末から始まる薬局でのお仕事のため大阪にお引越ししました。次男も家でオンライン授業です。ついでですが、犬や猫、鳥骨鶏に金魚、みんな元気です（笑）

五月六月の行事は中止が決まりました。次に皆さんとお会いできるのは七月の永代経法要です。そのときは、本堂を今まで以上に精一杯お莊厳して、皆さんの声が本堂いっぱいに響くことを強く強く念じています。その日まで、皆さん元氣で頑張りましょうね。

（文責 坊守）

どすん

新しい病の流行でとても不安な日々ですが、皆さんお変わりありませんか。こんな時でも、山の木々